

Guide
to
Shibusawa
Memorial
Museum

渋沢史料館
のご案内



3つのテーマでひも解く、
渋沢栄一



常設展示「渋沢栄一をたどる」



常設展示「渋沢栄一にふれる」

栄一の思いに
ふれる

当館に残された、渋沢栄一の映像、回想、関連資料から「日常」、「思い」、「言葉」にふれていただきます。栄一の邸宅「暖依村荘」で、もしかしたら栄一の姿に出会えるかもしれません。

91年の人生を
たどる

渋沢栄一 91年の生涯を、年齢ごとの展示ユニットでご覧いただけます。生まれから順に見ても、あるいは好きな年齢だけを見るのも、あなた次第。どうぞ自由に栄一の生涯をたどってください。

幅広い活動を
知る

渋沢栄一が携わったさまざまな事業や活動、多くの人々との交流をご紹介します。「ふれる」や「たどる」の内容を掘り下げる、または新たなテーマを取り上げるなど、随時展示替えを行います。

渋沢栄一とは

1840年、現在の埼玉県深谷市に生まれました。農業・商業を営む実家を手伝うかわら、尊王攘夷思想に傾倒しましたが、縁あって一橋慶喜の知遇を得て家臣となりました。1867年パリ万博で文明に触れ、感銘を受けました。帰国してからはその経験を活かし、民間の立場から約500社にのぼる株式会社、銀行などの設立、経営指導に尽力し、民間経済外交、社会公共事業に取り組み近代日本の経済社会の基礎を作りました。

常設展示資料のご紹介



渋沢栄一 慶応3年頃



第一国立銀行



エジソン電気会社にて 明治42年



講演する渋沢栄一 昭和2年



渋沢栄一 明治16年頃



東京市養育院板橋本院新築披露病室にて 大正13年



小山正太郎画



新聞を読む栄一 暖依村荘にて 大正15年

掲載資料はすべて渋沢史料館所蔵



渋沢史料館入館料 (晩香廬・青淵文庫共)	一般	個人	団体(20名以上)
		300円	240円
	小・中・高生	100円	80円

開館時間 10:00～17:00
(入館は16:30まで)

休館日 月曜日(祝日と重なる場合は開館)
祝日の代休(祝日後の最も近い火～金曜日の1日)
12月28日～1月4日

交通 ●JR 京浜東北線王子駅南口より徒歩 5 分
●東京メトロ南北線西ヶ原駅より徒歩 7 分
●都電荒川線飛鳥山停留場より徒歩 4 分
●都バス飛鳥山停留所より徒歩 5 分
●北区コミュニティバス
飛鳥山公園停留所より徒歩 3 分
※駐車スペースのご用意はございません。
公共交通機関をご利用ください。

飛鳥山 3つの博物館 3館共通券 紙の博物館、北区飛鳥山博物館、渋沢史料館の3館に入館できる共通券を販売しています。(発行日を含め3ヶ月有効) 一般 800 円 小・中・高生 320 円



〒114-0024 東京都北区西ヶ原2-16-1(飛鳥山公園内)
TEL:03-3910-0005
<https://www.shibusawa.or.jp>
<https://x.com/bankouro>

渋沢史料館



渋沢栄一の活動を広く紹介する博物館として、1982年に開館しました。かつて栄一が住んでいた旧渋沢邸跡に建ち、公益財団法人渋沢栄一記念財団が運営しています。栄一の生涯と事績に関する資料を展示し、それにまつわるイベントなども随時開催しています。

ばんこうろ
晩香廬

国指定重要文化財



1917年に栄一の喜寿(77歳)を祝って清水組(現・清水建設株式会社)より贈られた洋風茶室です。青淵文庫とともに、建築家・田辺淳吉の代表作です。渋沢邸を訪れた賓客をもてなすために利用されました。

せいえんぶんこ
青淵文庫

国指定重要文化財



栄一の傘寿(80歳)と子爵に昇格したお祝いを兼ねて、1925年に竜門社(現・公益財団法人渋沢栄一記念財団)が贈呈しました。ステンドグラスや装飾タイルなどが書庫に彩りを与えています。書庫として建設されたことから全体的に堅牢で、鋼製の書棚などにも十二分にこだわった建築となっています。



邸内にて 飛鳥山邸 昭和2年



川村女学院の生徒たちと 青淵文庫 昭和4年



外をながめる栄一 飛鳥山邸 昭和6年



米国新聞記者団招待茶話会 青淵文庫 昭和4年



中華民國の蔣介石と榮一 青淵文庫 昭和2年



邸内でくつろぐ栄一 飛鳥山邸 昭和2年



栄一と家族ほか 飛鳥山邸 大正3年



救世軍大將ブラムウェル・ブース招待会 晩香廬 大正 15 年



孫たちに囲まれた栄一 飛鳥山邸 昭和4年



徳川慶光公御一家招宴 飛鳥山邸 昭和4年